

子育てなら原村、老後だって原村。やっぱ原村♪



Rural Relocation Vol.36

移住して8年目突入 まもなく田舎暮らしの達人？

暑くなり青い空に積乱雲がモコモコと発達してくると夏が来たんだと痛感。ふと3年前の今頃を思い出した。『やっぱ原村』は3年前の8月にスタート。懐かしさから振り返り、その第1回に登場してくれた移住の先輩、村田さんご夫婦のその後を取材してきた。

別荘生活20年の後、原村移住を果たした村田さんは、村民生活8年目に突入。3年前に取材に伺ったときも面白く暮らしており、移住の大先輩のように感じたが、3年後の今は、もっと極めているように思えた。

あの時、実は家族がもう1人：いやもう1羽いた。黒い羽をきちんと閉じ、村田さんご夫婦の後をちょこちょこついて歩いていた烏骨鶏の『うーちゃん』だ。でもまもなく病気で亡くなってしまった。しばらくしてやっぱりまた烏骨鶏を家族に迎え入れたいと出身の三重から白い烏骨鶏を3羽連れてきた。なぜ3羽かというとなつかせるためにひよこから飼ったのだ。ひよこのうちは雄雌の区別が難しい。3羽いたら1羽くらい雌がいるだろうということ。3羽だったのだ。ピンゴ！雌が2羽、『ウッチ』と『コッチ』。雄は『ボス』と名付けられた。



この子達が『ウッチ』と『コッチ』。私には区別が付かない。

ところで烏骨鶏が、あまり卵を産まないことを皆さんはご存じか。鶏のように毎朝1個産むわけではない。普通の人なら「そういうものか」と思って終わりだが村田家は違う。「本当にそうなのか、それならばどれだけ産むのか記録してみよう。」と、毎日記録しはじめたのだ。以前にソーラーパネルの

取材をした時にも細かなデータを毎月取っていた村田さん。今回も手書きで平成23年10月31日から産み始めたのを境に今日まで毎日記録している。データ取りが得意なのか、それとも好きなのか？



この子は雄の『ボス』。『ポーちゃん』と呼ばれている。強そうで強くなさそうな名前がちよっとうける。

雄は望まれていなかったのだが、その理由は朝早くから大きな声で朝が来たことを告げるかららしく、近所迷惑などを考へてのこと。望まれていなかった雄だから粗末に扱われているのかと思えば大間違い。ご主人のお膝ののってご満悦。朝の発声練習は玄関の風除室でピンピンとひびかせ、ご夫婦の目覚まし代わりになっている。

ということで毎日ではないが卵は自給自足。他野菜は家庭菜園より近くのプロ、小松農園。やはり、もちはもちやだ。こんなに近くに美味しくて安全な野菜が安価で手に入るのだから家庭菜園は楽しむ程度で。ということらしい。しかし楽しむ程度の家庭菜園のレベルは高い。原村暮らし8年目は伊

達じゃない。その間の失敗と成功がレベルを上げてきている。ここでもまた得意のデータ取りが活きてくるのだ。なるほど：ね。

家庭菜園よりも家庭果樹園に力を入れてきた村田さんのご主人は、今年も桃の木に張り付いている。ただ、老木になってきた木をなんとか元気にさせようと、古い枝を切り落とし新しい枝に期待を寄せている。



右上が3年前の枝。たくさんの桃がなった。袋かけの作業中。左下が今年の写真。ここには、たくさん実を付けたあの枝はもうない…。それでも別の方向へ新たな枝が次の年の準備をしている。

建物は平成2年に地元宮坂建設で。今でも客人用の離れとして使われている。白い外壁が別荘の清涼感を出している。



他にもリンゴに梨と、こちらも自給自足。残りのスペースにハーブや花を植え、原村の四季を彩っている。お2人の田舎暮らし、まもなく達人!?



右上が3年目の写真。増えて広がったラベンダーが見事。左下が今年の写真。あのラベンダーは今年の冬に無くなってしまった。今はマーガレットに囲まれる毎日。新たなラベンダーが手前に植えられている。

建物は平成18年に、やはり宮坂建設で。白い別荘横の一段高い所に建築。村役場から1kmの場所なので、運転免許がなくても不自由なく暮らせる。屋根にはもちろんソーラーパネル。

